


 巻頭言

「知識」と「経験」の継承

宮崎県総合農業試験場
生物環境部長兼病害虫防除・肥料検査課長

まつ

うら

あきら



自分は宮崎県に入庁後、今年で35年目となりますが、そのうち病害虫の研究部門と発生予察部門の業務に24年間携わってきました。

これまで県内で大きな問題となった病害虫は数多く、トマト黄化葉巻病、タバココナジラミバイオタイプQ、キュウリ黄化えそ病、サトイモ疫病、サツマイモ基腐病などは、発生を契機にそれまでの防除体系を大きく見直さざるを得なかった病害虫です。これまで宮崎県の病害虫防除所が特殊報を発表した病害虫は75種（1981～2025年）となり、平均では毎年1～2種が新たに発生しています。もちろんすべてが難防除病害虫となる訳ではありませんが、上述したように大きな被害をもたらす病害虫も少なくありません。今後も新奇病害虫の発生が続くのは間違いなく、また昨年の果樹カメムシの多発など近年の地球温暖化による既知の病害虫の多発化や発消長の変化など、植物防疫関係者の不安の種は尽きないところです。

これらの病害虫の初動対応において、植物防疫関連部署の職員には一定以上の知識や経験が必要と考えますが、本県では以前に比べ10年以上の経験を持つ職員が減ってきています。そのため、今後の適切な新奇病害虫などの初動時の対応力などをしっかり維持するために、人材育成が喫緊の課題となっています。会議等でお会いする九州各県の植物防疫関係者との意見交換でも、どのように人材育成を行っていくかが共通する課題となっており、各県とも苦慮しているようです。これまで何もしてこなかった訳ではありませんが、結果的に十分ではない状況になりつつあると感じています。いくつもやるべき取組はありますが、今回の巻頭言では、5年ほど前から取り組んでいることを一つ紹介します。

大したことではないのですが、毎年、月1回の頻度で約1時間の植物防疫に関する様々な施策や各種病害虫の生態、農薬の使用方法などの研修会を継続して開催しています。研修会の中では、教科書に載っているような知識だけではなく新奇病害虫の発生時の対処法などを、実際に問題となった病害虫を事例として、自分自身の経験も資料として提供しています。この研修のきっかけは、病害虫の調査に向かう公用車内で、当時の若手の同僚の質問に答えていたところ、「早めに調査や防除指導のコツなどを知っていれば良かったなあ」との言葉でした。その言葉を聞いて、確かに個人の努力で勉強することも大切な一方で、自分の知識や経験をあらかじめ教え

ることは、人材育成にも有効ではないかと思い、研修会を始めたところでした。実際に資料を作ってみると、以前より病害虫数や制度など多くなっており、なかなか個人の努力で習得するのは難しい状況になっています。このようなきっかけで始めた病害虫関係者向けの研修会ですが、ほかの栽培系の研究員にも参加を呼びかけ、興味のある者が参加してくれています。平成30年から始め、途中別部署への異動も挟みながら、月1回の研修会は、今年で5年目に突入します。また研修会の内容も植物防疫だけでなく、「学会発表」、「論文投稿」、「実験計画」、「学位取得の方法」などの話題も提供し、自分が提供できる基礎知識は資料化し、早めに知ってもらおうと取り組んでいるところです。また、毎年同じ内容（ちょっとずつ変えてはいます）で研修を繰り返して開催しており、特に病害虫の試験研究に従事する職員には、できるだけ同じ内容でも参加してもらっています。そのため、少なくとも関係者の植物防疫の基礎知識の習得には繋がっていると信じています。この研修会が人材育成に繋がっているかは、すぐにはわかりません。もしかしたら、単なる自己満足かもしれません。ただ、新奇病害虫の発生は、今でも続いており、いずれ大きな被害をもたらす病害虫が発生することは間違いなく確定した未来と考えています。そのため、人材育成の遅れは、生産現場の大きな被害につながることを肝に銘じながら取り組みを継続しているところです。

また、この研修会を通して、職員間の情報共有による円滑な意思疎通を図りたいとも思っています。何かの取組を進める際、同じ情報を持つ相手とは、円滑に物事を進めやすくなります。特に今後職員数が減少していく可能性が高い状況では、個々の職員の力以上に、組織としてまとまって動けるようになるかが、業務能力の維持に重要と考えています。

組織として動くために、次のような考え方が大事だと思っています。誰の言葉か忘れましたが、「組織として強くあるために、組織をまとめるためには、方向性を持たせないといけない。個々が全体を意識し、長い時間軸で考え、ベストの解を導く」という言葉です。この言葉のように共通理解を進めることが、組織として植物防疫の行政・研究・発生予察を強化し、新奇病害虫などへの対応力の維持につながるのではないかと考え、これからも研修会を継続して行く予定です。